

歩道・車道バラエティー「道との遭遇」

～紀伊半島の難所を攻略した国道 168 号の歴史を巡る～
令和 7 年 2 月 18 日（火）午後 11 時 56 分～放送

番組「道との遭遇」～ミキがミチに出会うバラエティー！全国のユニークな「道」を変化球目線で深掘り、とことん楽しむ！

今回は紀伊半島を南北に貫く国道 168 号。奈良県五條市から和歌山県新宮市までの区間は現在も整備を行うほどの難所として知られる。かつて、この難所を克服しようとさまざまな整備計画がたてられたものの、その多くは中止され、現在もなお計画の痕跡が残っているという。今回は、そんな国道 168 号の歴史を辿る。

五新線鉄道は奈良県五條市から和歌山県新宮を結ぶ計画で昭和 15 年着工したが昭和 57 年計画中止となり未成線に終わった。

五條～城戸間は道路に転用され、バス専用道として使われたが平成 2 年バス運行中止となる。今では賀名生から城戸までは 4 つのトンネルを通れるウォーク専用道として残る。

鉄道に代わって国道 168 号が整備されてきた。

昔、大塔村阪本は高野山と大峯山上ヶ岳を結ぶ巡礼の道にあり、林業及び金属鉱山があり交通の要衝であった。紀伊半島の先端の海は難所で関東から大阪への海運のネックのため新宮から川沿いに阪本までのぼり、陸路、天辻峠を越えて和歌山・大阪方面へ運ばれていた。

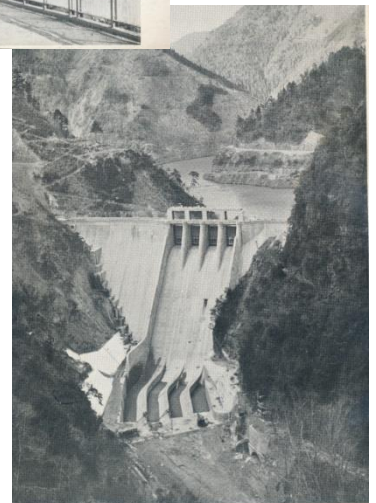
国道 168 号線の整備が進み、林業・鉱山の衰退及びダムが建設され交通の要衝でなくなった。



未成線となった五新線鉄道のアーチ橋（五條市）



交通の要衝 ↑
大塔村阪本
（昭和 30 年代）



昭和 32 年
猿谷ダム竣工
貯留した水を紀の川水系へ送水

写真：「大塔村史」より 奈良県立図書館情報館今昔 WEB 蔵